

# 令和5年度北薩地区フレッシュ研修（初任校研修）研究授業研修【道徳科】

令和5年10月6日（金）

	小学校・義務教育学校（前期課程）	中学校・義務教育学校（後期課程）
1 目的	研究授業や授業研究等を通して、道徳科の内容に関する理解を深め、指導方法等についての資質を高める。	
2 会場	阿久根市立折多小学校	長島町立川床中学校
3 出席者	小学校・義務教育学校 教諭 45人	中学校・義務教育学校 教諭 24人
4 内容	(1) 開会行事 (2) 指導講話（主任指導主事） (3) 事前研究・研究協議 (4) 研究授業（第2学年 道徳科） 主題：あたたかい心 B-(6)親切，思いやり 「くりのみ」（日文） 授業者：田辺 拓玖 教諭 (5) 授業研究 司会：藺田 倭弥 教諭（阿久根市立阿久根小学校） (6) フリートーク (7) 指導助言（指導主事） (8) 閉会行事 代表挨拶：古市 朗 教諭（阿久根市立脇本小学校） 会場校長挨拶：田原 俊一 校長	(1) 開会行事 (2) 指導講話（指導課長） (3) 事前研究・研究協議 (4) 研究授業（第1学年 道徳科） 主題：挑戦し続けること A-(4)希望と勇気， 克己と強い意志 「風を感じて－村上清加のチャレンジ」（東書） 授業者：岩野 敦 教諭 (5) 授業研究 司会：福田 江里加 教諭（長島町立鷹巣中学校） (6) フリートーク (7) 指導助言（指導主事） (8) 閉会行事 代表挨拶：藤崎 洋祐 教諭（長島町立長島中学校） 会場校長挨拶：西元 ひとみ 校長
5 様子		
6 初任者振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>「うさぎは、きつねにくりのみをあげた方がよい。」という考えをもっていたが、役割演技でうさぎ役に「本当にあげても大丈夫？自分のくりのみが減っちゃうよ。」と声を掛けたことで、「確かにあげたくない。」とう本音を引き出すことができた。揺さぶりの発問は重要で人間がもつ心の二面性を引き出すことができた。</li> <li>交流活動を目的とするのではなく、交流することでそれぞれの考えが広がったり、深めたりできるような話し合い活動を実践していきたい。</li> <li>板書が構造的で、心情の変化が視覚的に理解できるようになっていた。</li> <li>教師の説話では、静止画を見せていた。児童に語りかけるような話し方についても学ぶことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>村上さんに起こった困難は生徒の想像をはるかに超えるものであり、生徒が自分事として考えることが難しい教材であった。</li> <li>アンケート結果を示すことで、経験を振り返り、自分事として捉える導入になっていた。</li> <li>建前的な意見に終始せず、考え・議論する道徳にするためには、切り返しの発問や揺さぶる発問が大切であると感じた。</li> <li>ICTの活用が目的ではなく、手段であることを忘れないようにしたい。</li> <li>教師主導ではなく、生徒主体の授業をつくっていくためには、生徒との信頼関係や十分な教材研究が大切である。教材研究を行ったり、他の先生の授業を見せていただいたりして、初任校での4年間で授業力を磨いていきたい。</li> </ul>